

テーマ「責任ある一票を」

八女高等学校 新庄 加奈

選挙に行く、今まではまだまだ先のことで私には関係のないことだと感じていました。しかし、今年選挙権年齢が満十八歳に引き下げられ、十八歳になりたての私も有権者の一人となりました。選挙権が与えられたことは、私たち若者が社会に認められたような気がして率直にうれしい気持ちと、私たちの一票が政治に反映されるというずっしりと重い責任を感じました。だから私はできる限り選挙についてきちんと調べ、自分で考えて投票しよう決めました。調べていくうちにだんだん政治への関心が高まって、もし選挙権年齢が引き下げられていなかったらこんなこともなかっただろうと思うと、今年高校生でよかったと感じました。

そして迎えた選挙当日、部活動に行く前に投票所に寄りました。初めての選挙でとても緊張しました。制服で行ったからということもあってか、周りの大人の方たちに「おお」と声を掛けられて少し恥ずかしかったですが、若い人がこんなに期待されているのかとうれしい気持ちになりました。また、私が行った投票所は私の出身小学校の体育館で、小学生のころはとても大きなイメージがあった体育館だったのですが、高校生になって入ってみると想像以上に小さくて、そんな場所で今は投票していると思うと、私も大人になったものだとしみじみ感じました。

部活動が終わってその日の選挙の速報を見ると、新しく有権者となった十八歳と十九歳を合わせた投票率はおよそ45%と出ていて私が思っていたより低くて少し残念でした。学校の政治経済の授業で、若者の投票率が低くなると、若者の声は政治に届きにくくなり、その結果、若者に向けた政策が実現しにくくなってしまうと習っていたからです。だから次の選挙の時はもっとこのことを若者にアピールして政治への関心を高めないといけないと思いました。また、日本史や人権学習で、昔の人々が普通選挙権、女性参政権などを獲得するために様々な運動をおこし、今日にいたるまでにたくさんの苦悩と努力があったことを学びました。そんな行動を起こしてくださった先人が二十一世紀には、まだ学生である十八歳に、しかも当たり前のように男女に選挙権が与えられるような未来が来ると知ったらどう思うだろうか、と考えるだけでもわくわくする気持ちと先人への感謝の気持ちでいっぱいになります。まして、選挙権を無駄にしようという気持ちになんてなりません。それなのに、無駄にしてしまった人が半分以上いるのが現状です。

大人たちがつくってきた社会をより良いものにするために、今こそ私たち若者の力が重要です。間接民主主義の日本では、若者が政治参加できる手段として選挙は本当に大きいものだと思います。責任ある一票で日本の未来を拓きたいと強く思っています。